(2) 目標=分野別の提案

1. 人材

奈良の観光振興のためには、観光業に携わる人から、県民に一人ひとりまで、もてなしの心とスキルをもうことが必要であり、もてなしのこころをもった人材養成が急務である。

提案タイトル	将来像（目指すべき奈良の姿）	必要な施策
4-17 子どもたちによる「お迎え」マップの作成	<p>◇子どもたちが、住んでいる地域を紹介する手づくりマップを作成し、駅等に置き、「お迎えの気持ちを表す」「着地での観光情報を提供する」ことが、各地域であたりまえに行われている状況。</p> <p>◇マップに、地域情報を掲載することにより、駅付近の散策→駅付近の観光資源の充実→駅付近の活性化→街の活性化へとつなげることも可能となる。</p>	<p>◇小中学校の子どもたちが地域を紹介する手づくりマップの作成を授業として行う。</p> <p>◇手づくりマップの次のステップでは、ホームページの作成も望まれる。これについても、コンピュータの授業に取り入れてもらう。そのためには教育委員会への働きかけが必要である。</p>
4-19 奈良パスポートの発行による奈良を挙げての歓迎体制づくり	<p>◇県下のどこへ行っても来訪者を歓迎する、質の高い飲食店・みやげもの店がある。</p> <p>◇おばちゃん満足し、また来てもらえる奈良</p>	<p>◇産学&行政&県民の総意による奈良パスポートを発行（無料）</p> <p>◇パスポートは、県民の推薦に基づく「優良もてなし店」、公共施設等で利用でき、スタンプラリー的な性格ももたせ、十分な特典つきとする。</p> <p>◇パスポート申込者には、メールで、奈良の情報を送り続ける。</p>

2. NPO、ボランティア、地域団体の発展、行政の支援

外国人観光客の受け入れが、国を挙げての課題となっているが、奈良では、外客を受け入れる体制がまだ不十分である。そのほか観光振興のためになすべき課題は数多い。これらの諸活動を地域の人みずからが、立ち上げ育て、広く展開していかなければならない。行政はそのサポート役を担うべきである。

提案タイトル	将来像（目指すべき奈良の姿）	必要な施策
4-1 観光交流支援機構—外国人旅行者（インバウンド）の来奈良の促進と交流	<p>◇インバウンドの観光立県を目指す。2010年は平城遷都1300年祭で賑わいをみせているが、2011年以降は入込客数に疑問符がつく。インバウンドの増加により、産業と雇用の創出、ひいては県の活性化につなげる必要がある</p>	<p>◇外国人旅行者（インバウンド）の来奈良の促進と交流に関する総合サービス提供の仕組みづくり</p> <p>◇関係機関との連携・提携</p>
4-16 京都を超える奈良の魅力の「情報発信の力」をつける	<p>◇情報発信の中味を、総花ではなく焦点を絞って効率的に、かつ簡潔にわかりやすく発信していくことが必要である。そうすれば、結果として、国内外より多くの観光客の誘致が可能と考える。</p>	<p>◇遺産を1300年後まで残せる環境の整備と情報発信</p> <p>◇仏教会の統一と年1回の祭典の実施=アジアのローマ化</p> <p>◇芸術家の町づくり</p>
6-1 奈良の産業の活性化に向けて—ハートフル奈良観光都市宣言	<p>◇奈良固有の資源・人材・産業等が活かされ、発展する状況があること</p>	<p>◇新しい視点での観光資源づくり</p> <p>◇農業・酪農観光の促進</p> <p>◇奈良固有の商品の開発・販売</p> <p>◇自然環境を生かした街づくり</p> <p>◇人材育成（起業家、もてなし等）</p> <p>◇産業観光の開発</p> <p>◇産業振興 など</p>

3. 広域生活圏

県内の各地域において観光客が気持ちよく過ごせるための、おもてなしの心、景観に配慮した、バリアフリーの観光まちづくり、都市整備、地域整備が必要である。また、これらの地域を観光客の視点に立つてむすびつけるルートづくり、ソフト、ハードのネットワーク形成：圏域づくりが重要である。

提案タイトル	将来像（目指すべき奈良の姿）	必要な施策
4-10 「ならまちロード」の設定と奈良市街のエリア分割	<p>◇近鉄奈良駅およびJR奈良駅から「ならまち」に向かうメインストリートは古都の落ち着いた街並みにして、「ならまち」ともとも来訪者に楽しんでいただく「ならまちロード」の設定</p> <p>◇奈良の市街は大まかに、神社仏閣エリア、ならまちエリア、リラックスイリア（新大宮）、生活エリア（その他）と色分けし、特徴を出す。</p>	<p>◇街並み景観条例で、東向き通り・もちいどの通り、三条通りを古い町のイメージの建物や看板に順次変更して行く。</p> <p>◇店の閉店時刻を21時まで延長するよう、商工会などで音頭をとって進める。</p> <p>◇歡樂的飲食店は新大宮の方へ開店をするよう指導。</p>
4-13 歴史のつながりを感じる観光	<p>◇歴史のつながりを感じる観光ルート・観光ゾーンが形成され、回遊してもらえる奈良</p>	<p>◇その時代に生きた人たちの足跡を追う歴史観光を企画する。</p> <p>◇奈良県だけでなく近隣府県との歴史的なつながりを知ることができる観光ルートを形成する。</p> <p>◇食文化の歴史を巡る観光を目指す。</p>
4-14 宇陀の高原地帯を歴史・文化・アウトドアの聖地化一連携した総合力がある観光リゾートとする	<p>◇少なくとも夏場は、それぞれが集客を見込める「家族向け資源」「歴史文化広報」「名物料理と温泉」の3本柱と宿泊所を強化し、連携できれば宇陀だけでも1～2泊の観光ルートが成立する。</p>	<p>◇観光シーズンに、各地間を自治体シャトルバスや奈良交通で繋ぎ、農家民泊など宿泊所整備をすることができれば、地元への経済効果も期待できる。冬場も料理を強化して「ゆっくり、ゆったり」を売りにする。</p>
4-18 視覚障害者のための観光ナビゲート用システムの導入	<p>◇誰もが安心して歩け、楽しめる奈良</p>	<p>◇特別な条件をもつ観光客に、現在地の特定、訪れた史跡・建築物の紹介や案内に加え、危険箇所を教えるような、携帯端末などに使える観光用メモリを作成、現地でイヤホンとその電子システムを支給する。</p> <p>◇やがては、ユニバーサルデザインの観光まちづくりも考える。</p>
4-23 屋根付き、簡易トイレ付きの団体用休憩所（おべんと広場）の設置	<p>◇観光地としての配慮のきいた設備が整っている奈良公園は、安心してお弁当を楽しめて、天候に関わらずのんびりと過ごせる、ホスピタリティの行き届いた所となり、ますます訪問客が増加する。</p>	<p>◇1300年祭で平城京跡に設置されている休憩所や団体待合所を、祭終了後に奈良公園に移設し、簡易トイレを設置（再利用）するだけで良い。</p> <p>◇設置場所としては、登大路園地や春日野園地、飛び火野辺りか…。</p>

4. 高次人材の輩出

長期的な視点に立った政策形成、戦略立案のためには、これらを担う高次人材の育成が必要である。また戦略形成の基礎となる学術研究を進める必要がある。

提案タイトル	将来像（目指すべき奈良の姿）	必要な施策
4-6 本格的・特異な 「国際観光学部・学科」 の新設	◇観光立県を目指す。外国人旅行者を多く受入れ、地域の活性化、ひいては経済の活性化につなげる。	◇「奈良国際観光大学」の設立が理想であるが、資金、文科省の認可問題で設立は容易ではない。奈良県立大学に国際観光学部の設立を提案する。不可であれば、他の私立大学に働きかけたい。これは、日本の他大学で全く例のない特異な大学または学部・学科とする。

5. 交流

観光の本質は、訪れた人々と地域の人々、また訪れた人々同士が交流し、相互の理解を深めることにある。このため、住民との交流が楽しめる交流地域づくりの仕組みと仕掛け、工夫が必要である。

提案タイトル	将来像（目指すべき奈良の姿）	必要な施策
4-3 宿泊観光の振興策—観る観光から交流する観光へ	◇観光交流は、地域住民の生活・文化や食べ物、物産などを楽しんでお金を消費してもらうことにより、地域経済の活性化を図ることにある。 ◇奈良市を訪れた観光客が県中南部の橿原市や明日香村、高取町そして黒滝、川上、天川等吉野地域にまで足を伸ばし、住民との交流が楽しめる観光交流地域の創出を目指す。	◇県中南部地域の諸問題の分析、戦略の立案、実施主体の育成、イベントの企画運営、旅行情報の発信などの支援を各地域に出向いて行うための機関を設立する。
4-20 人を中心とした観光交流への再構築	◇地域の人々の「もてなし」と他地域の人々との「つながり」を基本とする観光交流地域づくりが必要である。	◇もてなしの心推進県民会議では、これまでに、31のもてなしのまちづくりモデル地区を認定しているが、これをさらに拡大する必要がある。 ◇もてなしのまちづくりモデル地区に対して活動助成金を提供し、他地域の人との「つながり」を拡大してもらう。

6. 特色ある産業

観光は、人々の暮らしを支え、豊かな地域を創る産業としても位置付けるべきである。この視点に基づき、マーケティング力、マネージメント力を駆使した産業的活動を促進する。

提案タイトル	将来像（目指すべき奈良の姿）	必要な施策
4-4 奈良の観光交流の質の向上を目指す観光交流評価情報提供システムの構築	◇1)来訪者に対して徹底的な聞き取り調査を行い、そのデータに基づき、2)優れたサービスを行っている施設・地域等の情報を来訪者に提供するとともに、3)来訪者のニーズや問題点指摘情報を受入れ側の施設・地域等へ提供し、サービスの質の向上や新サービスの開発を促すことにより、来訪者が「個々人のテーマに沿った旅」を楽しみ、こころよく過ごせる奈良の実現を目指す。	◇春・秋の2回/年、調査対象数を3,000件/回、調査範囲を県下全域に拡大して、「来訪者の満足度調査」を行い、多数の生の声を収集する。 ◇調査結果に基づく「評価本」の発行、web上での公表を行う。 ◇実施にあたっては、公正を期すため、評価委員会を設置して、その指導のもとに取り組む。
4-8 奈良を売り込むため一京阪神や首都圏や九州などへの奈良の有力店の出店促進	◇奈良観光の多様な良さを具体的に知らせるためには奈良の事業者自身がマーケットに出て行き、その良さを宣伝する必要がある。	◇単に東京にオール奈良の宣伝所をつくるだけでなく、地域を代表する有力店が出店する。 ◇全体的には、県事務所などと連携しながら奈良の名店ネットワークを形成し、情報発信
4-11 神社仏閣の6時開門	◇奈良のすがすがしい早朝の雰囲気や幽玄な夜間の情景に接することができるようにする。	◇南都八大寺および南都三神社は、朝6時（冬季は7時）に拝観開始時間を早める。 ◇必要な人員配置は数を絞り、ボランティアも募集して賄う。 ◇夏には夜間拝観も順次検討していく。
4-12 ナイトマーケット「平城夜市」の通年開催	◇東アジアの活気あふれる街に存在する「ナイトマーケット」を造ることで、奈良の夜に活気が生まれ、夜の奈良観光につながる。	◇日本最初の都があった地には「日本最初の市」があったはずである。日本最初の市を「平城市場」とするならば、日本唯一の夜市として「平城夜市」と名づけ通年開催する。
4-15 地域観光資源の掘り起こしと新たな切り口の検証	◇歴史的建造物・仏像・芸能・芸術・歴史・民話・食文化・特産物・人物・キャラなどの連携と連動が進められ、多様で高質な地域観光資源が活かされている奈良	◇地域観光資源の把握 ◇近隣観光拠点の共通項を整備。観光客が県内をめぐり仕組みをつくる。 ◇アジア・海外からの旅行者に対応できる観光案内の整備 ◇宿泊所整備 ◇奈良仏教界の設立
4-24 現県庁の場所を新しい観光産業集積地とし、世界的な高級ホテルを誘致する	◇超一流の世界的なホテルを現在の県庁の地に設け、この一帯を新しい観光産業集積場所とする。 ◇県庁の移転先は、大和中央道に沿っている片桐高校跡が候補地として良いのではないかと。	◇現在の県庁所在地に、世界的な高級ホテルを誘致 ◇県庁を片桐高校跡へ移転 ◇現在の県庁の周りは、高級ホテルの誘致とともに、奈良国立博物館、県立美術館、奈良県文化会館などを芸術文化の拠点として整備する。

8. 行政

民間の力、地域の力を支援する行政がもとめられている。

提案タイトル	将来像（目指すべき奈良の姿）	必要な施策
6-2 奈良K ³ (ケイ キューブ)ー環境・観光・ 県庁のKが「×(かけ る)」に作用する奈良県づ くり	◇環境(K)・観光(K)・県庁(K)ーこ の三つのKを相互に連携、新しい奈 良を創る	◇県庁舎を移転し、跡地に大型の国際観光ホテルを誘致 ◇県庁システムは、ソフト・ハードとも、最先端技術・エコ技術を取り入れ再構築 ◇JR大和路線と近鉄橿原線の交差箇所に乗換駅を造り、公共交通機関の利便性を増強

9. 創造的な文化

奈良の全国、世界に対する比較優位は、国の始まりとともに育まれた文化と歴史の集積である。この蓄積の上に内外の人々との交流を通じ、新たな文化を創造し、発信してゆかねばならない。

提案タイトル	将来像（目指すべき奈良の姿）	必要な施策
4-2 「芸術と歴史の都 奈良」の出版	◇奈良全体を俯瞰できる案内書が、定価2,000円までで入手できる。	◇奈良は、その歴史を知り、かつての「咲く花の匂うが如き都」を想像できれば、観光地ローマにも比すべき歴史遺産をそこに見出すことができる。その助けとなるような書物（印刷物）を廉価版で、各国語別につくる。
4-5 日本人の心の故郷：奈良へ	◇どの国の人も、その心の故郷を求めて古都を訪ねる。今回平城遷都1300年祭に訪れた方の多くは、1300年前の文物に直接接触れ、自分の目で確かめることにより、「日本人の心の故郷」は京都ではなく奈良だと実感されたのではないだろうか。	◇奈良には、1300年にわたって育んだ歴史、景観、建造物などの素材が多々ある。「奈良にしかない、奈良だけしか味わえない雰囲気づくり」を追求すれば、「また、訪ねたい街：奈良！」が日本人の心の中に広く宿るのではないかな。そんな政策を打ち出したい。
4-7 新旧住民が協働 —地域の魅力をアピールする映画づくり	◇いつまでも「せいせい、さんさん、こんこん」であり続ける「豊かな自然の国 奈良」。これは「清々たる緑、燦々たる太陽、湧々たる泉」という奈良県の豊かな自然を表す言葉からきているという。 ◇外人観光客にも積極的に自己表現ができ、よさをアピールできる人々が多くなってきた「人が輝く国 奈良」	◇官民共同の運営主体を設立 ◇制作費用は、行政と募金 ◇自分たちが地域を見直す機会になる地域の魅力紹介映像を新旧住民で合作 ◇伝えたい地域の魅力スポット、脚本」、制作スタッフを募集 ◇エキストラは地域住民から募集
4-9 南都八大寺セミナーの常時開催	◇南都八大寺がセミナー開催を通じて、参拝客の「心の再生」を促し、「安らぎの提供」を行うようになっている。 ◇奈良が単なる観光地から「精神文化の復活の地」になっている。 ◇奈良市と南都八大寺が、日本一の価値を保有している仏教で、現在の日本と人々が抱えている精神面の立て直しという大きな使命を果たしている。	◇南都八大寺の僧侶により、毎日持ち回りで教や奈良に関するセミナーを開催する。 ◇各寺において特別な法要や行事の時は事前にセミナー担当を調整しておく。 ◇観光ガイドブックや奈良のポスターなどに「南都八大寺セミナーの常時開催」を掲載し宣伝
4-21 日本の（日本人の）故郷：奈良づくり	◇日本の故郷の演出（地域に根づいた文化の掘り起こし・保存・再現・イベントの定例化） ◇おもてなしマインドの指針づくりとその実践（地域単位の勉強会） ◇県民ぐるみで行う心の故郷づくり（県づくり・街づくり・村づくりの基本設計）	◇「日本の故郷」理念作成 ◇行政の強力なリーダーシップと強い信念、地元企業・自治体の参画。官民寺社が一丸となった取り組み ◇教育現場への落とし込み、将来の奈良を担う若人の育成 ◇故郷納税の推進